追憶の美人 日本画家 鏑木清方（かぶらききよかた）

平成26年
4月5日(土)～5月11日(日)

～学芸員・河内えり子さんが語る「鏑木清方」展の見所～

平成26年春、佐野美術館では
企画展「追憶の美人 日本画家 鏑木清方」を開催します。
鏑木清方（1878～1972）は、挿絵画家から始まり
やがて日本画家として93歳でこの世を去るまで重鎮として活躍しました。
本展では鎌倉市鏑木清方記念美術館が所蔵する作品を中心に
約80点を紹介します。

朝涼　大正14年（1925）
鎌倉市鏑木清方記念美術館蔵

清方はどんな少年でしたか？

河内　明治11年に東京神田に生まれ、江戸の余韻を残す下町で育ちました。父は戯作者であり『やまと新聞』の創刊者でもありました。幼い頃から画家や作家が自宅を出入りし、その仕事を間近で見て過ごしました。家族は芝居好きで、清方も10代から芝居の評論を書くほど早熟でした。

清方はどんな作品を描きましたか？

河内　清方といえば美人画ですが、その作品は単なる美人画ではなく、江戸・明治期の人々の暮らしや伝統的な芸能への造詣が背景にあります。清方が生きた明治から昭和は、震災や戦火で東京の風景が一変し、急速な近代化で古き良き日本の文化や風習が失われていった時代でした。清方はそうした時代の変貌を惜しみ、少年の頃親しんだ江戸情緒や明治の風俗を描き続けました。

清方の作品の魅力を教えてください。

河内　清方の作品の多くは人物画です。その魅力は画中人物の所作や姿態から、その内面までも写し出す豊かな人物描写にあります。眼差しや髪の一筋、指先のほんの些細な動きから、喜びや悲しみを描き出しています。清方の優れた表現力は、15歳から挿絵画家として多くの文学作品と関わり行間を読む力を養ってきたことに関係しているのでしょう。単なる美人画ではない心の機微を表現する力ー、それが清方作品の最大の魅力だと思います。

展覧会のポスターに使用された【朝涼（あさすず）】はどんな作品ですか？

河内　清方にとって人生のターニングポイントになった重要な作品です。この時清方は47歳。展覧会の審査員など画家以外の仕事で多忙となり、作品制作の余裕のない時期でした。これではいけないと一念発起し取りかかったのが、長女が爽やかな夏の朝霧の中を散歩する姿を描いたこの作品でした。本作は高い評価を受け、清方自身も気に入り大切にしていたそうです。清方が画家としての自信と決意を新たにした作品と言えます。

展覧会の見所を教えてください。

河内　今回の展覧会の構成は、1章は挿絵画家から日本画家への歩み、2章は江戸や明治期の市井の風俗を描いた作品、3章は清方の真骨頂である美人画の世界、と分かれています。清方の作品を様々な視点から楽しめる内容となっています。清方の美人画の魅力をぜひご堪能ください。

MUSE 招待席　”大佐野さん”

私達世代の人は、内裏雛を飾る時、御殿に向って右側に男雛、左側に女雛を飾りました。三人官女も御殿の中です。

御殿を作る時、子供心にも間違わない様に手伝った思い出があります。

佐野美術館の館長さん、爽やかな、少女のような妙子先生が、日本では五指に入る刀の専門家とは想いもよらない方と尊敬しております。

「十三夜の宴」には緒明様に誘われ、毎回参加させていただいております。

音楽の調べに最高に心奪われている時、木々の間から登り来る月の美しさは日本一です。

私は子供の時、大佐野さんのお屋敷のすぐ近くに住んでいました。お屋敷の周りは田園で、子供達の恰好な遊び場でした。

小学校五年の時終戦、同時に三島の連隊跡に進駐軍がいっぱい駐屯してきました。「夜は子供達は外へ出ない事」と云われました。

そして、将校さんの御家族が、小さな子供さん二人と大佐野さんのお邸に住まわれました。

学校の帰り道、木々の間、石垣の隙間から番兵さんに見付けられない様、桃色の薄い天女の様な洋服を着た青い目の少女がめずらしく毎日寄り道をしていました。

七十年前のお話でした。

ゴールド会員　塚田冷子

ミューズクラブ会員　募集中

ミューズクラブでは、随時会員を募集しています。
特典として、年間パスポート発行はもちろん、
アートに親しめる美術館ならではのイベントも多数開催しております。
お気軽にミューズクラブ事務局（TEL055-975-7278）までお問合せください。

新規入会者（平成25年9月1日～平成26年3月31日まで）

正　会　員　浅井由美子、上田純子、植松靖博、加賀澤敏一、柿崎 理、加藤雅則、木村宏、熊倉裕之、後藤正博、木幡憲司、小松雅代、杉浦三寿、鈴木愛子、鈴木亜矢、鈴木郁夫、髙橋秀一、（有）瀧屋美術　瀧本了、土屋賢太郎、中村麻美、鍋田陽子、西島帯刀、西島玉枝、増田安秀、松本寿子、峯岸弘芳

ゴールド会員　エンゼル薬局 野村政春、野村晴香、加藤誠、加藤富美子、木村博彦、田代貴之、田代みゆき、増田朱美

※敬称略、50音順

Number 13 2014.03
佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報
2014年3月号／第13号
発　行　日／平成26年3月31日　編集・発行／佐野美術館賛助会ミューズクラブ
〒411-0838　静岡県三島市中田町1-43　TEL:055-975-7278　FAX:055-973-1790　ホームページ：http://www.sanobi.or.jp

佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報

ミューズ交歓

佐野美術館と皆さまをつなぐ

Number 13 2014.03
Muse Club Magazine
SANO ART MUSEUM

第9回 ミューズクラブ ゴルフ大会

芸術鑑賞 日帰りバス旅行

会員のつどい（新年度総会）

館蔵品特別鑑賞講座 ～はじめての仏像～

十三夜の宴

会場の様子

EVENT
イベント
スケジュール
平成26年度

平成26年度

イベントスケジュール

EVENT イベント情報

平成26年度に開催されるイベントを紹介します。お気軽にご参加ください!

会員のつどい（新年度総会）　平成26年4／29㊋㊗　15:00〜18:00

ミューズクラブの総会として、平成25年度の決算・事業報告、平成26年度の予算・事業計画を発表します。報告会後は、余興として落語や会員相互の交流を目的とした懇親会を開催します。本年の出演者、落語家の柳亭市弥さんは、東京都出身の30歳。大学を卒業後広告代理店に勤めるも、転勤先の大阪で柳亭市馬の落語に魅せられ、平成19年に市馬師匠に弟子入り。平成20年前座となり、平成24年二ツ目に昇進しました。

会費：1,500円（会員）
定員：50名（要申込・先着順）
会場：佐野美術館講堂
出演：柳亭 市弥（落語家）

芸術鑑賞日帰りバス旅行　平成26年　7／3㊍

国立劇場での歌舞伎鑑賞をメインに、都内のアートスポットを巡る芸術鑑賞バス旅行。今年は午前中に都内の美術館を見学し、ホテルでの昼食後、国立劇場で近松門左衛門の名作「傾城反魂香」をご覧いただきます。中村梅玉、中村魁春が演じる気品あふれる正統派の舞台をお届します。歌舞伎は初めてという方のために、お芝居の前には歌舞伎俳優が作品の見所やストーリーを分かりやすく解説します。

会費：会員／10,000円
　　一般／15,000円
定員：90名（要申込・先着順）
歌舞伎演目：傾城反魂香（けいせいはんこんこう）

第9回 ミューズクラブ ゴルフ大会　平成26年　9／5㊎　8:00〜16:30

芦の湖カントリークラブは、佐野美術館の創設者・佐野隆一が造った、歴史と伝統のあるゴルフ場です。富士箱根国立公園内に位置し、眼前に富士山、眼下に駿河湾が広がる絶好のパノラマビューコースが魅力です。ミューズクラブでは毎年秋に、このゆかりあるゴルフ場で会員親睦ゴルフ大会を開催しています。芦の湖カントリークラブのサービスで、全組にキャディーが付いています。ビギナーや女性もお気軽にご参加ください。

会費：会員／3,000円
　　一般／5,000円
プレー代：9,000円
（カートフィ・税込）※昼食代別
定員：32名（4名×8組）
会場：芦の湖カントリークラブ

十三夜の宴 じゅうさんやのうたげ　平成26年10／6㊊　17:00〜20:00

毎年十三夜に、美術館に隣接した日本庭園で開催される月と音楽を楽しむ野外コンサート。名月を愛でながら、虫の音や池のせせらぎをBGMに、これまで和洋ジャンル問わず幅広い演奏を行ってきました。演奏後の温かいバイキング料理もご好評をいただいています。また、参加者からの要望を受け、昨年から観客席をすべてイス席にしました。秋の風情を感じながら、ご家族やご友人と優雅なひと時をお過ごしください。

会費：会員／3,000円
　　一般／5,000円
定員：約100名（要申込・先着順）
会場：佐野美術館隆泉苑庭園
出演：未定

館蔵品特別鑑賞講座〜はじめての仏像〜　平成26年11／22㊏　14:00〜15:30

館蔵品特別鑑賞講座では、普段展示ケース越しでしかご覧いただけない館蔵品を、学芸員の解説のもと実際に手に取りながら鑑賞していただきます。今回は「はじめての仏像」と題し、仏像彫刻の鑑賞に役立つ基礎知識を紹介します。仏像の見方、鑑賞のツボを知れば、神社仏閣めぐりがより楽しくなります。仏像の入門編としてぜひご参加ください。会員の紹介者であれば、一般の方もお申込みいただけます。

会費：1,000円（会員）
定員：約15名（要申込・先着順）
会場：佐野美術館講堂
講師：志田理子（佐野美術館学芸員）
出品作品：館蔵品の金銅仏5点ほど

※日時・内容は変更する場合がございます。

平成25年度下半期 活動報告

イベントレポート

佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報
ミューズ交歓
佐野美術館と皆さまをつなぐ

平成25年度下半期は3つのイベントが開催されました。

第8回 ミューズクラブゴルフ大会

平成25年9月9日（月）
参加人数：30名

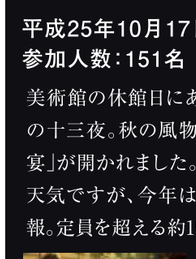
今年のゴルフ大会は、恒例の芦の湖カントリークラブで、男性27名、女性3名、定員より2名少ない30名での開催となりました。遠くは横浜からの参加者もいましたが、参加者全員時間通りに揃い、いいスタートを切りました。箱根の天候は不安定で、過去には大雨が降ってびしょ濡れになりながらプレーしたこともありましたが、この日の天候は曇り時々晴れで、まずまずのゴルフ日和。全員時間内にホールアウトできました。ラウンド終了後は、クラブハウスで表彰式、懇親会を開催。地元の作家の作品や展覧会に関連した品など、美術館ならではの景品を参加者全員に贈りました。優勝は正会員の四條さん！おめでとうございます。

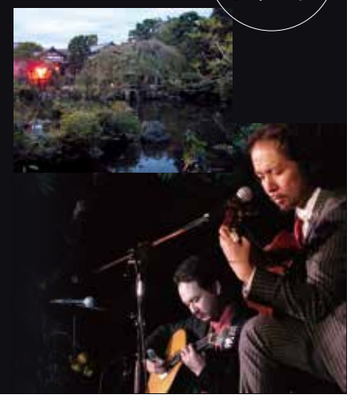
十三夜の宴（じゅうさんやのうたげ）〜哀愁のポルトガル音楽　ファドの夜〜

EVENT イベントレポート

平成25年10月17日（木）
参加人数：151名

美術館の休館日にあたってしまった今年の十三夜。秋の風物詩である「十三夜の宴」が開かれました。毎年心配しているお天気ですが、今年は何日も前から晴れ予報。定員を超える約150名のお客様にご参加いただきました。今年の演奏者は、ファド歌手の高柳卓也さんとポルトガルギター奏者の飯泉昌宏さん。「ファド-Fado-」とは、ポルトガルで古くから庶民に歌い継がれてきた民謡です。鼻母音を生かした独特の発声で、恋愛や望郷の念など微妙にこぶしをきかせて歌います。会場全体にしみわたるような歌声が響きます。何とも切なげで悲哀に満ち、それでいて情熱的です。曲の合間のお話も面白く、哀愁と笑いにあふれたステージとなりました。





館蔵品特別鑑賞講座〜名刀と名品の装具編〜

平成25年11月23日（土・祝）
参加人数：15名

佐野美術館で開催している「きもの・装いの美」展も中盤にさしかかった11月の祝日に、館蔵品特別鑑賞講座が開催されました。今回はきもの展によせて、日本刀にとっての飾り、装いである刀装具をテーマに8点の館蔵品を鑑賞しました。刀装具は鐔や小柄、目貫といった刀身に付属する部品全体をさし、刀剣を携帯したり使用し易くするために装着します。それらには精密な細工が施され、各分野の工匠の高度な技術が結集しています。展示室でケース越しに接する美術品とは違い、手にのせて刀を動かしたり姿を眺めたり、細部までよく鑑賞することができました。講座終了間際まで質問が相次ぎ、熱心に講師の渡邉館長の話に耳を傾けていました。